



学校法人 昭和大学
発行人 小口勝司
電話 (3784) 8000 142-8555
東京都品川区旗の台1の5の8
1部 50円 毎月1回発行

- 7月号の内容
1面
・第11回学祖祭開催
・昭和大学学術研究奨励基金
研究者決定
・学業成績優秀賞受賞者
・上條最優秀論文賞決定
・昭和大学特別功勞表彰
2面
・上條奨学賞 受賞者決定
・上條記念ミュージアムホーム
ページ全面リニューアル
3面
・学校法人昭和大学 決算の
概要
4面
・特別奨学生・シンシアー奨
学生採用式
・認定看護師教育センター開
講式
・科学研究費助成事業 交付
状況
・学生会シンポジウムのお知
らせ
・昭和大リカレントカレッジ
春期プログラム開講・
秋期プログラム募集開始
・就任のお知らせ
・昭和大学サポート寄付金寄
付者氏名

【問合せ先】
【本紙について：総務課大学広報係】
03-3784-8059
press@ofc.showa-u.ac.jp
【各種募金・寄付について：企画課】
03-3784-8387
【学事について：学務課・大学院課・入学支援課】
03-3784-8022(旗の台)
0555-22-4403(富士吉田)
045-985-6503(横浜)
03-3784-8026(入学支援課)

第11回 学祖祭開催

第11回学祖祭が6月6日、上條記念館で開催された。学祖祭は本学の創立者である上條秀介博士の遺徳を偲ぶとともに、本学関係者が一堂に会して絆を深めることを目的としている。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大状況を踏まえ、規模を縮小しての開催となり、学祖・上條秀介博士の親族、法人役員など164名が出席し、式典の様子をオンラインで配信した。



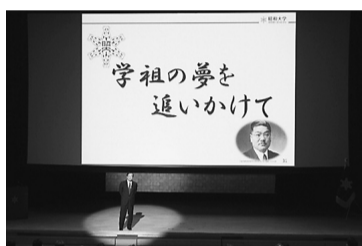
墓前報告(事業報告・将来計画報告)

同日の朝、学祖祭前に小口勝司理事長をはじめ法人役員と関係者は多磨霊園(東京都府中市)を訪れ、参列者一同で黙祷を捧げ、本学の事業が順調であること、上條秀介博士の墓前に報告した。午後1時、薬学部6回生の足立純枝さんによるバイオリンとピアノニスト鈴木厚志さんのピアノによる「ジュール・マスネ作曲「タイスの瞑想曲」の演奏で学祖祭が開式。久光正学長が挨拶を述べた。

上條最優秀論文賞、学術研究奨励基金研究者表彰、特別功勞表彰および学業成績優秀賞の表彰が行われた。また、小口理事長による「令和2年度事業報告および将来計画」についての講話が行われ、最後は代表者による昭和大学宣言と校歌斉唱(清聴)で閉式となった。

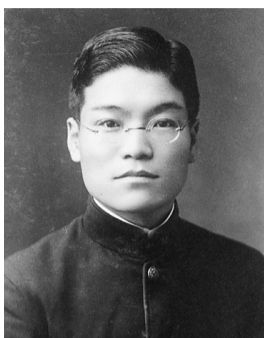


挨拶：久光 正学長



講話：小口勝司理事長

上條 秀介 博士 創立への歩み



上條秀介博士が、昭和医学専門学校創立の意を決したのは、東京帝国大学助手として、

研究、臨床に忙しい日々を送っていた32歳の時だった。当時は医学統一が強く主張されており、「同じ医者に2つの種類があることは不合理である」という理由から、多数の医学専門学校が大学に昇格していた。ところが大学の資格を得

た者は、見識のみ高く、直接患者に手を下すものが少なくなっていた。こうした当時の医学教育を憂いた上條秀介博士は、「研究に明け暮れ、患者を置き去りにしてはならない。患者から力量手腕について迷いを抱かせるようではいけない」との思いから、社会が要求している優れた臨床医を養成する医学専門学校の創設を決意した。

令和3年度 学術研究奨励基金研究者および研究課題

本学では学術研究の将来を担う活力ある若手研究者を育成することを目的に、専任教育職員および大学院生の優れた学術研究に対して研究奨励金を給付している。今年度は学術研究諸活動21件、海外留学諸活動1件に決定した。詳細は表のとおり。

学術研究諸活動 21件(申請件数: 23件) 給付額 各42万5,000円

学 部	所 属	職 名	氏 名	研究課題
医学部	微生物学免疫学講座	助教	長島 隆一	慢性腎臓病(CKD)における自然リンパ球(ILCs)の役割と治療への応用
	内 科 学 講 座	助教	大坂 直也	メチルグリオキサリルハイドロイミダゾロン阻害作用の解明と治療応用
	腫瘍病・代謝・内分泌内科学部門	助教	石黒 智之	尿中・呼気中・体液中の揮発性分子検出機による肺がん診断の実現可能性の検討
	内 科 学 講 座	助教	望月 清孝	術中リアルタイム癌自動診断システムを導入した消化器癌手術の基礎的研究
	腫瘍内科学部門	助教	大野 浩平	術前シミュレーションに基づくリアルタイムICG蛍光法を用いた安全な右結腸切除の有用性
	外 科 学 講 座	助教	國上 千紘	食物アレルギー児におけるいじめ被害の実態調査
小児科学講座	助教	佐々木 成成	尿路感染症患児から分離されたESBL産生菌の酵素遺伝子型と抗菌薬感受性	
	小児内科学部門	助教	本多 愛子	鶏卵アレルギーの耐性獲得の診断法についての前向き観察研究
歯学部	口腔外科学講座	助教	安部 勇蔵	低酸素・低栄養状態の口腔扁平上皮癌細胞におけるTPD52の細胞生存因子としての役割の検索
	口腔腫瘍外科学部門	助教	高橋 玲	現在ニースの高い免疫疾患に関わるヒトランゲルハンス細胞の機能的で最適なin vitro生成法の確立
薬学部	基礎医療薬学講座	助教	越塚 宏美	昭和大学江東豊洲病院において、末梢静脈栄養が栄養状態に与える影響および使用状況に関する調査
	病院薬剤学講座	助教	米澤 夏里	小児患者の院外処方箋に対する院外保険薬局からの疑義照会の調査
	基礎薬学講座	助教	日暮 大誠	癌細胞における呼吸鎖機能(NAD ⁺ 産生)による細胞増殖制御機構の解明
	腫瘍細胞生物学部門	助教	籠内 良介	糖尿病神経障害に対するSMTp-44Dの作用メカニズムの解明
保健医療学部	基礎医療薬学講座	助教	松本 奈都美	核酸輸送に関与するトランスポーターの遺伝子多型とカバシタピンの体内動態及び毒性
	がんゲノム医療薬学部門	講師	尾形 佑香	看護学生の共感とメタ認知の関係
	看護学	講師	市村 菜奈	音楽聴取による記憶想起時の脳血流の変動
	看護学	講師	藤後 秀輔	ビデオ映像を用いた看護師の行動分析に基づく看護師自身の省察
理学療法学科	講師	前田 卓哉	上肢の身体抑制後の上肢機能の関連について	
	作業療法学科	講師	青木 啓一郎	認知症専門病棟における脳細胞トレーニングツール CogEvoの有用性の検討
富士吉田教育部	—	講師	花田 康高	多自由度系のトンネル効果におけるカオスの役割について

海外留学諸活動 1件(申請件数: 1件) 給付額 100万円

学 部	所 属	職 名	氏 名	研究課題
医学部	内 科 学 講 座	助教	酒井孝志郎	臨床的治療戦略と転帰におけるPullback pressure gradient (PPG) indexの影響調査および前向き多施設登録研究(PPG global registry)の解析

昭和大学学業成績優秀賞

学業成績優秀賞は、本学各学部生および医学部附属看護専門学校生の成績優秀者の学習意欲を喚起することを目的として表彰するもの。令和3年度は次の学生が表彰された。

令和3年度 学業成績優秀賞受賞者	
医学部	2年 石塚 千紘
	3年 櫻井 春輝
	4年 大川 哲平
	5年 平野 真穂
	6年 高須宗一郎
歯学部	2年 嘉陽さくら
	3年 村崎 智仁
	4年 飯田 萌
	5年 木内 彩紀
	6年 根岸宗一郎
薬学部	2年 中道 万結
	4年 須原沙緒里
	5年 若槻 真由
	6年 花澤 聖
	保健医療学部
3年 佐々木麻琴(看護学科)	
4年 千葉 美並(作業療法学科)	
看護専門学校	2年 志真 蓮南
	3年 松本明香里

(ほか 薬学部3年 1名)

令和3年度 昭和大学特別功勞表彰

特別功勞表彰は、本学に著しく貢献した職員を対象として、その功勞を称えるものである。今年度は、コロナ禍において、患者はもとより、学生や職員のために平日・休日、昼夜の別なく検査業務に尽力した、昭和大学病院PCRセンターに贈られた。

受 賞 者	
昭和大学病院 PCRセンター	センター長 木内 祐二
	他 82名(※)

※氏名は次号に掲載



表彰(特別功勞表彰)

令和3年度 上條最優秀論文賞受賞者および論文名

上條最優秀論文賞は、本学研究者が筆頭著者として出版した論文(オンライン出版を含む)のうち最も優秀な論文を対象として表彰するものである。今年度は、がん細胞のHER2遺伝子変異がHER2を標的とした抗体薬物複合体(ADC)の効果を予測するバイオマーカーになりうることを示唆する臨床試験結果を論文発表した、昭和大学先端がん治療研究所の鶴谷純司所長が表彰された。

筆頭著者	論文名
昭和大学 先端がん治療研究所 所長 鶴谷 純司	Targeting HER2 with Trastuzumab Deruxtecan: A Dose-Expansion, Phase I Study in Multiple Advanced Solid Tumors.



表彰(上條最優秀論文賞)